平成２６年度　教育事業

つながる！ボランティア体験講座

子供たちの体験活動を支援するボランティア活動の準備と運営を協働的に実践することを通して、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的知識・技術等を習得し、主体的に行動する意欲や態度を養成することができました。

１　事業実施までの経緯

従前より、青少年にボランティア精神を普及し、生涯を通じて様々な場面でボランティアとして活躍できる人材を育成する重要性が指摘されている。そこで、普段からボランティア活動に取り組んでいる者や、これからボランティア活動を希望する者へ、ボランティア活動の実践と交流の場と機会を提供できるよう、この事業を企画した。また、機構の法人ボランティア制度に基づき、ボランティアの基礎的な知識だけでなく、参加者自身が小学生の日帰り体験プログラムの運営計画を立てて実施することにより、事業運営に必要な知識と技能を体験から学ぶことをねらいとして事業を企画した。

２　ね ら い

子供たちの体験活動を支援するボランティア活動の準備と運営を協働的に実践することを通して、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的知識・技術等を習得するとともに、生涯を通じて地域や様々な場面において主体的に行動できる意欲と態度を養成する。

３　主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家

４　後　　援　愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・西予市教育委員会・愛媛新聞社

５　期　　日　平成２６年９月２７日（土）～２８日（日）【１泊２日】

６　場　　所　国立大洲青少年交流の家

７　参加人数　２４名　（小学生日帰り参加者３６名）

８　講　　師　玉井　義幸 氏（国立大洲青少年交流の家研修指導員）
大洲地区広域消防事務組合消防署員
国立大洲青少年交流の家　企画指導専門職・事業推進係

９　日　程・内　容

(1)　日　　程

	13:00	13:30	14:00	15:00	16:30	19:30	21:00	22:00	22:30
27日（土）		受付	開講式	活動①アイスブレイク	活動②安全管理（救命救急）	活動③ロケット竹パン実習・実食	活動④プログラムを考える	入浴就寝準備	情報交換会	就寝

	6:30	9:00	10:00	14:30	16:00	16:30
28日（日）	起床つどい朝食	活動⑤受入準備	活動⑥運営実践（開会式・仲間づくりあそび・ロケット竹パン・閉会式） 小学生日帰り体験　プログラム	活動⑦ボランティア理解	閉講式	解散

⑵　活動内容

【概　要】

本事業は、独立行政法人国立青少年教育振興機構における法人ボランティア養成共通カリキュラムに基づき、１日目に参加者が事前にボランティアについて学び、計画した上で、２日目に実際に小学生へ学んだ内容を実践するなど、体験から学べるように、２日間のプログラムを実施した。２日目の「小学生日帰りプログラム」の参加者は、来年度統廃合する西予市の４つの小学校の児童を招待し、来年度の統廃合にむけて交流させることを目標に、参加者は計画と準備、運営実践に取り組んだ。

活動①アイスブレイク（９０分）　講師：玉井　義幸 氏（国立大洲青少年交流の家研修指導員）

開講式の後、当所の研修指導員の玉井氏の指導で、参加者同士の緊張をほぐし、交流できるようにアイスブレイクを行った。これからの講座に向けて活動しやすい雰囲気作りを行うとともに、アイスブレイクの手法を、体験を通して学んだ。２日目に小学生相手に「仲間づくりあそび」を実施するためのスキルを身に付けることもできた。（法人ボランティア養成共通カリキュラム項目「活動スキル（各施設）」９０分に相当。）

活動②安全管理（９０分）　講師：大洲地区広域消防事務組合消防署員

消防署員の指導により、普通救命救急（入門編）を実施した。応急手当や救命救急等、自然体験活動やボランティア体験活動を運営する上で必要な、安全管理の知識や技術を学ぶことができた。イベント中に事故が起こった場合や、野外で活動する際に怪我が発生した時は、二次災害などの周りの状況を確かめるだけでなく、素早く処置をすることによって、怪我を最小限に抑えることを学んだ。（法人ボランティア養成共通カリキュラム項目「活動スキル（共通）」９０分に相当。）

活動③ロケット竹パン実習・実食（１８０分）

参加者が、２８日から小学生に実施するプログラムであるロケット竹パンづくりについて学んだ。実際に小学生が安全に楽しめるように、活動場所や用具についての安全面での配慮や注意点について、確認しながら行った。（法人ボランティア養成共通カリキュラム項目「活動スキル（共通）」９０分に相当。）また、実際に、「子供たちを交流させる」という目標にむけて、２日目の運営を実施するにあたり、ボランティアに求められる役割や資質について学びながら、役割分担や声かけの方法などを学んでいった。また、小学生を交流させるという目的を果たすために活動する意義について学んだ。（法人ボランティア養成共通カリキュラム項目「ボランティア活動の意義」９０分に相当。）

活動④プログラムを考える（９０分）

翌日のパンづくり等のプログラムについて、小学生たちがより楽しめるプログラムとなるように、実施方法や役割分担を考え、準備した。その際、「統廃合する４校の小学生を交流させる」という目的を再認識し、「パンづくり」は手段であること、発酵を待つ時間や食べる時間なども目的に照らして、どう動くべきかを話し合った。また、「体験を通じて学ぶ場と機会を提供する」というこの施設の

教育機能と役割について理解した。（法人ボランティア養成共通カリキュラム項目「青少年教育施設の現状と運営」９０分に相当。）

活動⑤受入準備（６０分）

２日目は、実際に小学生と一緒に活動を行っていく上で、１日目に学んだ安全面や注意事項などを確認した。その際、受け入れる児童が１年生から６年生まで幅広いことから、発達段階に応じた体験活動における注意点や、声かけの仕方、役割の与え方などを再確認していった。今回の活動が児童にもたらす意義についても再確認し、児童を受け入れるための意識を高めていった。（法人ボランティア養成共通カリキュラム項目「青少年教育の理解」３０分に相当。）

また、次の活動⑥のための教材・教具の配置等、最終確認を行った。

活動⑥運営実践（２７０分）

小学生がバスで到着し、受付や班分けをしたあと、１日目に学んだアイスブレイクゲームからヒントを得て仲間づくりあそびを実施し、小学生と和やかな雰囲気をつくりだすことができた。安全面の注意点やパン作りの説明の仕方、児童の学年に合わせた班の役割分担について、１日目に話し合い、確認しておいたことで、スムーズに実施することができた。パン作りも、１日目に上手くいかなかった点を改善して取り組んだことで、それぞれが満足の行く結果になった。また、発酵を待つ時間なども、「交流させる」という目的にむかって、適宜遊びをとりいれるなど、有効に時間を使うことができていた。また、児童がバスに乗って分かれて帰る際、児童同士で「また来年な！」という声をかけあう姿が見られ、参加者たちは、今回の活動の意義が果たせたことに満足感を感じていた。参加者たちは、野外でのパン作りのプログラムの知識・技術や、体験活動の必要性や意義について、体験を通じて学ぶことができた。（法人ボランティア養成カリキュラム項目「青少年教育の理解」６０分、「活動スキル（各施設）」１８０分に相当。）

活動⑦ボランティア理解（９０分）

最後のプログラムでは、初めてのボランティア体験で充実した様子の意見が多く挙げられており、それぞれがボランティア活動に対して手応えを感じていたようであった。また、当所における子供たちの体験活動を支援するボランティア活動の内容を理解し、法人ボランティアの登録制度についても理解することができた。（法人ボランティア養成共通カリキュラム項目「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」９０分に相当。）

(3)　参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

＊満足：95.8%　　＊やや満足：4.16%　　＊やや不満：0.0%　　＊不満：0.0%

○　目的達成のために皆で協力して考えたりすることがよかった。

○　交流することで、自分に足りないもの等を発見することができ、とてもよい刺激になりました。

○　同じ目的をもって、協力すれば、容易に友好的な関係を築くことができるのだと感じた。皆が一つの目的にむかって団結した結果、子供たちのたくさんの笑顔を見ることができた。

○　これからのボランティア活動で、今後子供とかかわる上でどのようなことを考えればよいのか、勉強になりました。

(4)　成果と課題

当事業には、高校生から社会人にかけての異年齢集団が集まったことと、ボランティア活動経験者と初心者が集まった事で、グループ活動中はお互いの活動や経験について話す場面があり、参加者同士で情報交換をする機会ができた。また今回の、１日目に参加者自身が様々なプログラムを実際に体験しながら学び、２日目に小学生を招いて自分たちが学んだことを実践していく内容は、自らが体験したことを子供たちに伝えることで、体験的な学びとなったと考えられる。これからも、このような実践経験により体験からボランティアについて学ぶ内容を取り入れながら、ボランティア活動の推進を図っていきたい。また、法人ボランティアに登録した参加者１５名（部分履修者３名）が、今後、学んだことを楽しく活かせる事業を企画し、ボランティア参加者を伸ばしていきたいと考える。